

## &lt;地域公共交通計画の評価等結果の様式&gt;

函南町地域公共交通計画の評価等結果（令和２年９月～令和５年12月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
路線バスの年間利用人数 （路線バス利用者数） 241,195人（H29年度）⇒ 250,000人（R6年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通マップ作成（路線図に加え、乗り方などを掲載したもの）</li> <li>町が発行する福祉タクシー等利用券の利用を可としている。</li> <li>大場畑毛線に対し、路線維持のために町が欠損の一部を補助している。</li> </ul>	事業者提供資料による	<ul style="list-style-type: none"> <li>未達 計画上の現状値である241,195人の内、97,772人は既に退出となった伊豆箱根バス大場分譲地線あり、当該路線は全体の40.54%を占めており、目標値の250,000人の内101,350人と換算し、差引148,650人の目標と置き換えて考えます。令和4年度の路線バス利用者は100,117人であり目標値を下回っており、伊豆箱根バス大場函南線も令和5年度で退出となることから今後達成できる見込みなし。</li> </ul>	目標値設定当時、町内に乗り入れている３路線を民間路線バスとして利用者数の増加を見込んでおりましたが、次年度以後３路線の内、存続しているのは町が一部欠損補助をしている１路線のみ。コロナ禍により、事業者が大変な状況に陥っており、町としてはこれ以上の路線退出は避けたいところであり、引き続き１路線については補助を実施する計画です。評価基準自体が失われている中で評価そのものが困難である。	
実証運行の満足度 ３．５（５段階評価）	伊豆仁田駅、起点終点公共施設でのパンフレット配架、年末年始割引、町制施行60周年事業に併せた無料運行	調査員乗り込みによる利用者アンケート（R4.3月、R5.8月、11月実施）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4.3月（旧運行計画）における総合評価4.07「達成」/R5.8月実施（現運行計画）における総合評価4.05「達成」/R5.11月実施（現運行計画）における総合評価3.88「達成」</li> <li>・公共交通空白地を経路とし、固定的な利用者が見られたことが影響。</li> <li>・新旧運行計画の差については、乗降者の多い鉄道駅までの時間が長くなったことが影響。</li> </ul>	<p>実証運行の１便あたり利用者目標（５人/１便）は未達見込みである。（1か月ごとの利用者数の取りまとめ結果では、1便あたり2.0人～3.0人を推移）</p> <p>また、運行事業者（委託）の継続運行が難しい状況にあるため、運行形態の見直しが必要となる可能性が高い。</p> <p>アンケート等を踏まえ、運行計画の再検討を行ったうえで、新たな形で実証運行を継続し、本運行についての判断をしていく。</p>	
バスの現状に対する満足度 （総合評価） ３．２（R元年度）⇒ ３．５	公共交通マップ作成	鉄道駅を含む主要バス停にてアンケート配布による調査（R5.12月実施：1,294通配布）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの現状に対する満足度（総合評価）2.98「未達」</li> <li>・当初、路線バス乗込によるアンケートであり、利用者のみ対象のため、総じて高い評価となったが、今回は利用頻度が低い方も含まれていたことが影響していると考えられる。</li> </ul>	退出路線に関する話題が、町民にも広がり、不安に感じているという声を聞きます。限られた町民の満足度のみで町の事業を進めることの無いよう、できるだけ多くの声を参考としていきたい。	
公共交通空白地域解消に向けた施策として、支線交通を導入・改善した新規案件 １件	各地域や自治会の勉強会や公共交通説明会に出向き、各種提案や各地域主体で提案された案件に対し法的な見解や町としての助言を行っている。	町の調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規案件：1件（自治会主体の交通手段の確保案件としてバサディナ区において運転ボランティアによる高齢者福祉交通システムが開始）</li> <li>・意欲の高い自治会等への勉強会・説明会の実施により、運行にあたっての課題解決に向けて、庁内調整・新制度を設定したことが奏功。</li> </ul>	<p>1件は既に導入されましたが、バサディナ区の案件は他の地域においてもおおいに参考になるものであり、特に中山間地域の勉強会などにおいては積極的に紹介し、新規案件増加を目指す。</p> <p>中学校スクールバスの混雑化について、まずは高校生まで利用可能とする実証実験を行った（登録者４名）。</p> <p>湯～トピアかんみなみ送迎バスの目的外利用について、施設管理者と協議中。</p>	